

理学 GCP KAPI コース受講者の声

2024 年度

「意思疎通できることの喜び」

理学部化学科 2 年 A. O.

①このプログラムに参加しようと思ったきっかけ

最初に、このプログラムに参加しようと思ったきっかけを話します。正直、説明会を聞くまで留学するつもりは全くありませんでした。ただ、ぼんやりと海外に行ってみたいという気持ちはありました。KAPI コースは 8 日間という比較的短い期間だったので挑戦しやすいと思い留学を考えました。また、吸収が弱いので物体の内部まで到達するという近赤外の性質に興味を持ち留学を決めました。

②タイでの生活

次に、タイでの生活について「物価」「食べ物」「生活環境」の 3 つの観点から話します。

1 つ目の「物価」について、とにかく物価が安いです。例えば、セブンイレブンで牛乳とレーズンパンを買くと、日本では約 310 円かかりますが、タイだと約 145 円で買えます。倍以上の物価の差に衝撃を受けました。その他にもスーパーなどタイ人が日常的に利用するお店は安かったです。ただ、観光地や空港など海外向けの場所では日本と同じくらいの値段だったので自分の目で見極めないとはいけません。お店によってはディスカウントできるところもあり、私もトゥクトゥクの絵柄の T シャツをカセサート大学の先生にディスカウントしてもらって 300 円くらい安くなりました。

2 つ目の「食べ物」について、タイには日本含めいろんな国のレストランがありました。もちろんタイ料理を毎食のように楽しみました。タイ料理を食べたことはなく、タイ料理がどんなものかもほとんど知りませんでした。レストランで運ばれてきた料理は見たこともない料理ばかりでしたが、どれもすごくおいしかったです。ただ、タイ料理の半分くらいは辛いのとパクチー強めなものもあるので、注文するときは気を付けたほうがいいです。大人数でご飯に行くときは、大皿をみんなでシェアするのがタイスタイルのようです。アイスやかき氷もシェアしていて驚きました。

3 つ目の「生活環境」について話します。寝泊まりしたのは大学のキャンパス内にある「KU HOME」というホテルでした。アジアのホテルは汚くて、アメニティも少ないイメージがありました。アメニティは日本ほどは充実していませんでしたが、室内はきれいでとても広かったです。シャワーからはお湯が出るし、トイレトペーパー備え付けてあるし、大量の飲料水が部屋に用意されているし、冷蔵庫の温度も問題ないしと、海外とはいえ日本と同じようなホテル生活ができ、心身共に休むことができました。KU HOME から徒歩 3 分のところにセブンイレブンがあり、食事も困りませんでした。このセブンイレブンは大学のキャンパス内なので朝でも夜でも一人で安心して行くことができます。バンコクの街中には多くの車が走っていました。多くの車がトヨタなど日本の会社のものでもんだか嬉しくなりました。もちろん日本みたいに歩行者優先ではないので、車に注意して歩かないといけません。

③タイでの授業

次に、タイでの授業について「講義・研究施設の見学」「実験」の 2 つに分けて話します。タイでの活動は移動日を除いて 6 日間ありました。1~3 日目はいろんな先生を訪問して「講義・研究施設の見学」をしました。どこに行っても午前中に 1 回、午後にも 1 回おやつが用意されていて、多数のタイスイーツを楽しむことができました。4~5 日目は KAPI で NIR を使った「実験」をしました。6 日目は TA さんと一緒に観光に行きました。観光では、50m くらいある仏像を見たり、ソウに乗ったり、タイ式マッサージを受けたりしました。

1 つ目の「講義・研究施設の見学」について話します。1 日目は、カセサート大学の研究施設である KAPI で、カセサート大学について、KAPI について、NIR とは何か、NIR の活用例の説明を聞きました。また、KAPI の研究施設の見学もしました。農産物からオイルを抽出する装置や、農産物を粉末にする装置を見せてもらいました。2 日目の午前中、タイで一番の大学であるチュラロンコン大学を訪問しました。チュラロンコン大学へは sky train という電車と、特に学生証の提示など必要なく誰でも乗れるチュラロンコン大学のスクールバスを使って移動しました。チュラロンコン大学の教授に、NIR で品種の異なる種を見分ける技術を教えてもらいました。チュラロンコン大学には他国からインフルエンサーがくるほどおしゃれな宮殿のような建物があり、私もたくさん写真を撮りました。2 日目の午後は、カセサート大学に戻り農産学部の研究施設を見学したり、実験の被験者を体験したりしました。研究施設の見学では、ライトの色を変えることのできる個室がいくつか並んだ実験室があり、見た目には味が左右されない工夫がされていました。実験では、日本茶をサンプルに、苦味や花の香りなど計 5 項目についてのどの程度なのかを評価しました。人によって評価結果が異なり、感覚を数値化することの難しさを学びました。3 日目は、カセサート大学のカンペンセンにあるキャンパスを訪れました。ここでは、リンゴの硬さを調べる実験と、NIR で木材や葉の水分含有率を調べる装置の紹介をもらいました。木材の水

分含有率を調べる装置は手のひらサイズで、スマホにつなげて計測できるものでした。NIR をこんなに簡単に利用できるのだと驚きました。

2 つ目の「実験」について話します。実験のテーマは「NIR でオレンジの糖度を測る」です。糖度は普通、オレンジの果汁を糖度測定器に垂らして測ります。しかし、この測り方だと糖度を測ったオレンジは製品として売れなくなってしまいます。そこでオレンジを破壊せず計測できる NIR を使って糖度を測ることを試みました。NIR の測定結果は温度に依存しているので、何度でこの NIR の結果だとこの糖度という情報をコンピュータに学習させます。学習させたものからコンピュータにモデルを作ってもらい、そのモデルをもとに NIR で糖度を測定することができました。NIR で糖度を測定すると多少のずれはありますが、ある程度正確な糖度を破壊せず測ることができました。

④プログラムに参加して成長したこと

最後にプログラムに参加して成長したことを 2 つ話します。

1 つ目は海外へ行くことに抵抗がなくなったことです。留学する前は一度も海外に行ったことがなく、海外は危ない場所という偏見がありました。そのため、就職の際も海外出張や海外転勤が絶対ない会社を選ぼうとしていたほどです。たしかに、タイでは歩行者優先ではないので車は止まってくれなかったり、チップを強くねだられたりや安心安全とは言い切れない場面もありました。しかし、将来の選択肢を減らしてまで避ける必要はないと感じました。カセサート大学の先生や TA さんはとても親切で、たくさんのおもてなしをしてくれました。正しい知識があれば安全に海外を楽しめると気づき、他の国にも行ってみたいくなりました。

2 つ目は、コミュニケーションできる喜びに気付いたことです。タイの公用語はタイ語ですから、お互いに普段使わない英語で話していたのもあり、最初は話を通じず、途切れてしまうこともありましたが、だんだん英語ばかりの環境に慣れ、知っている単語を文にならなくとも言ったり、写真を見せたりして、全く違う国の人と意思疎通できたことに感動しました。

2024 年度

「KAPI コース 体験記」

理学部化学科 2 年 M. M.

ここでは、KAPI コースに参加した理由、タイの魅力、現地での生活という 3 つの観点から KAPI コースについて私の個人的感想を話していきたいと思えます。

1 つ目は、この KAPI コースに参加しようか迷っている方へ向けての話をします。まず、このコースは期間が一週間ほどで他のプログラムと比べて短いので、海外に行ったことが無い方におすすです。さらに渡航先が飛行機で 6 時間ほどで行くことができるタイなので、金銭的にも精神的にも参加するハードルは低いです。また、このコースは近赤外分光についての実験・講義がメインになっています。具体的には、NIR 分光器を使ってオレンジの糖度を測る実験を行ったり、講義で近赤外の応用例を学んだり実際に近赤外が利用されている様子を見せてもらったりしました。このように、KAPI コースは、量子化学の分野に興味がある方におすすです。私自身も、量子化学に興味があったのでこのコースに参加しました。そして、タイで近赤外についてたくさん知識を得られたので、本当に参加して良かったと感じています。最後は、英語を勉強したい人におすすです。また、現地での説明は全て英語で行われるため多くの専門用語の英単語も知ることができます。また、この経験は日本に帰ってから専攻している分野の英単語を勉強するきっかけにもなりました。一方、このコースは先程も記述したように近赤外分光についてあれこれメインになっているので海外で英語を学びたいという方にとっては物足りないかもしれません。しかし、とは言え一週間コミュニケーションが英語になるので、スピーキング・リスニングはある程度向上すると思えます。

2 つ目は、タイの魅力について話したいと思えます。しかし、タイには多くの伝統的な食べ物、建物、文化があります。まず食べ物についてです。正直なところ、私はタイに行くことが決まるまでは、タイの伝統料理についての知識がほとんどありませんでした。タイに行くことが決まり、タイ料理を調べてみて赤色の料理が多く辛い物が苦手な私は、タイ料理が自分の口に合うのか、かなり不安でした。しかし、初日の夕飯で食べた海鮮料理に私の胃袋は完全に掴まれました。握りこぶしサイズのエビやカニチャーハン、エビの卵カレーといったラインナップで、日本人の口にも合うような味付けで本当においしかったです。全体を通して言うと、確かに辛いものは多かったのですが、TA さんが詳しく説明してくれるので、安心して食事を楽しむことができました。次に伝統的な建物についてもです。私たちは最終日の観光で多くの寺院、遺跡を訪れました。ここでは、TA さんがその場所についての過去の歴史や壁画の意味を解説してくださったので、歴史について浅学な私にも楽しむことができました。そして、タイに行つて私が一番感動したことは、人々の温かさです。現地に出会った方達はいつも笑顔で、ゆったりとしたオーラを持っている方が多かったです。例えば、夜遅くなくても一緒にご飯を食べて寮まで送り届けてくれたり、体調不良で休んでいる子を常に気にか

連絡を取ろうとしてくれたりしました。彼らの姿を見て、私も優しく接することで、笑顔を伝染させられるようになろうと思いました。

3 月目は、タイで過ごした一週間の中の生活について話します。宿泊は大学の敷地内の寮に泊まりました。心配している方が多いであろう安全面ですが、大学構内は早朝から夜遅くまで多くの学生さんがいるので大学構内であれば一人でも歩き回ることができるぐらいの治安でした。大学構内では自由に行動ができないのかと思うかもしれませんが、日本の大学とは異なり寮から徒歩2分程のところにはセブンイレブンやカフェがあったり、さらにもう少し歩いたところにハンバーガー屋さんがあったりと大学構内にも関わらず本当に多くのお店があり、大学が一つの街のようになっているため、大学構内だけでも十分楽しめると思います。ちなみにセブンイレブンの私のおすすめは、ホットサンドです。タイのセブンイレブンでは、パンを貫くとトースターで焼いて貰え、サクサクのまま食べる事ができます。ぜひタイに行った際は、セブンイレブンのホットサンドを朝の散歩ついでに買いに行ってみて欲しいです。また、大学の運動場では夜になるとサッカーやバスケットをしたり、音楽祭のようなものをしていたりする様子を見ることが出来ます。大規模な催しを週2、3回の頻度で行っているそうなので、夜も楽しめると思います。大学外でも空き時間でタイマッサージやカフェなど私たちのリクエストした場所に連れて行ってくださりました。これほど、要望を叶えられると思っていなかったです。

以上が、KAPI コースに参加した私の感想になります。タイで一週間は私にとってとても刺激的で有意義な体験でした。そして色々なことに挑戦して、このような体験をこれからもしていきたいと思っています。

2024 年度

「KAPI コース 体験記」 理学部化学科2年 S. M.

私は本コースでタイのカセサート大学での研修に参加しました。主にはコース名にある「KAPI」というバンコクにある大学の研究機関にお世話になりました。日本人学生は4人という少数ながら、多くのTAさんと先生方が暖かく迎えてくださり、非常に充実した8日間を過ごすことができた実感しています。

以下文化面と学修面からそれぞれ私が思ったことを述べさせていただきます。

まず文化面に関して最も印象的だったのは、タイの方々の人柄の良さです。驚くほどのおもてなしの回数――食事代はほとんど払ってくれた上にたくさんの方々から何度もお土産もいただき驚かされました。

会話の中でも、専門的な難しい話でも噛み砕いて私にも理解できるように説明し直して、きちんと意味が伝わっているか丁寧に確認してくれる姿勢に英語力に不安を感じていた私はとても助けられました。タイでは国民のほとんどが上座部仏教徒です。日本人よりも良い来世を迎えるため現世で徳を積むことが顕著に意識の根底にあるようです。

最終日に観光でいくつかの寺院を見て回ったのですが、至る所に坐禅を組んだ仏様の像が置かれていました。ある寺院には戦争の影響により首のないものも多くあり、建造物もほとんどが一部を吹き飛ばされている状態で残っていました。日本にも火災や戦で損傷した歴史的建造物がありますが、ほとんどが修復されている印象を受けます。ここにもこの国の考え方が色濃く現れていると感じます。どれだけ辛いことでも過去の出来事をありのまま受け入れることができる精神は彼らの寛容さに通じているのだなと感心させられました。

食文化に関しては非常に興味深かったです。タイの方々には朝昼夜の3食に加え、スイーツやフルーツ、ジュースなどをつまむ休憩がてらのスナックタイムが存在するらしく、お菓子コーナーが常設してある部屋もありました。行く先々で私たちもたくさんご馳走していただきました。料理全般は比較的私の口に合ったので空腹に困ることはなく、むしろ常に腹7分という感覚で幸せでした。スーパーマーケットでは日本語のパッケージの製品や、私たちに馴染みのあるお菓子などを沢山見かけ、日本文化を身近に感じられる場面もありました。

続いて学修面についてお話しします。KAPIはKasetsart Agricultural and Agro-Industrial Product Improvement Instituteの略称で、近赤外分光(NIR)を用いて名前通り農産物や農製品の品質評価や改善を行っています。学修面で特に印象に残ったのは近赤外分光器を使用したオレンジの糖度測定で、TAの方々も協力して1日と半日をかけてじっくりと体験しました。

またカセサート大学農学部や他大学の研究室見学に加え研究内容の解説を受け、さらにはバンコクを出て別のカセサート大学のキャンパスで分光や品質評価の体験をさせていただくと、学びの詰まったプログラムでした。英語でのコミュニケーションに関して、TAさんは学修中以外にも1日の中で自分たちがホテルにいる時間以外は常に行動を共にしてくれたので、みんなで一緒に食事を取ることも多かったです。専門的な語彙だけでなく日常会話のスキルも自然と身につきました。中でもリスニング力はどのスキルよりも身についたと感じています。コミュニケーションにおいて最も私にとって課題だったのは相手の英語の訛りでした。毎日が共通テストよりも遥かに難易度の高い実践的リスニングでした。最初こそ苦戦しましたが、数日経つと

だんだんと耳が慣れていきました。さらにもし聞き取れない単語があっても文脈から即座に推測して補填するというコツも掴めました。

このKAPIコースは参加する日本人学生が少数のため、一人当たりのサービス・サポートが手厚い、学生の「あそこ行ってみたいな、あれ食べてみたい」といった望みが叶いやすい、というメリットがあります。「タイ式マッサージを受けてみたい!」という希望に対し、すぐ予約して隙間時間に連れて行ってくれたこともありました。

また8日間という短い期間は初めての海外に挑戦するにはちょうどよく、タイの人や文化に触れ、貴重な学び・体験をすることでさらにもっと海外に行ってみたくなるかと思えます。加えてタイ人の名前は一般的にとっても長いので、皆あだ名で呼び合っていました。初日で年上の女性には親しみを込めて「pi」+あだ名で呼ぶことを教えられ、それがきっかけで自然と距離を縮めることができました。先生も生徒も立場関係なく親しい様子でしたが、スキップは控えてました。フランクすぎない距離感の取り方が日本人にはピッタリなのではと思います。

あの8日間は今思い返しても最高の思い出でした。留学の体験は学生の今しかできません。ぜひ参加してみてください。

2024 年度

「KAPI コース 体験記」 農学部資源生命科学科 応用植物学コース2年 S. E.

私はこのプログラムを通じて、沢山のことを学ぶことができました。このプログラムについて、前半では参加するメリット、デメリットと交えて学んだことなどを、後半は私がしたタイでの経験について書いていこうと思います。まずメリットから、1番は英会話力が身につくことです。そんな1週間で英会話うまくなるの?と思うかもしれませんが。私も実際、英会話が得意ではなく、はじめは緊張もあってもじもじしてしまっていました。けれど、滞在中はほとんどの食事や講義、その他の活動を共にすることになるので、自然と英語で言いたいことを伝えられるようになりました。(文法の間違いなどは気にせず、とりあえず積極的に話してみる事が大切だと分かりました。)また、2番目のメリットとしては、私たちを受け入れてくれたタイの人達(教授やTAさん)がとても親切なことです。例えば、移動のために善意で車を出してくれたり、私たちにタイ料理を沢山ごちそうしてくれたり、講義が終わったあとにもタイの有名な場所などに連れて行ってくださり、言わば至れり尽くせり、といった感じでした。このプログラムは今年から始めて前例がなかったため、先生も一緒に行った生徒もみんな、待遇の良さに驚いていました。

他のメリットとして、1週間という短時間で比較的気軽に参加できること、少数なので融通が利きやすいことなども挙げられます。

デメリットや私が苦戦した点も少しだけあるので紹介しようと思います。デメリットとして、タイは虫が多かったり食べ物独特な味(エビの皮みたいな味がして口に合わないものも多かった)だったり、日本と違う点が多くて過ごしにくい部分があるといったことです。私は慣れない環境のせいで体調を崩し1日ダウンしてしまいました。けれどそういったことも減らせない貴重な経験になったので良かったのかもしれません。また、私がとても苦戦したのが、講義の内容が全然理解できないことです。このプログラムの講義は主に物理・化学の知識を活用した内容で、普段農学部で生物しか学んでいない私にとっては暗号のようにしか見えなかったです。TAさんが丁寧に解説してくれたのですが、元々の基礎知識がないため理解ができませんでした。なので、もし来年農学部でこのプログラムに参加したい人がいれば、その覚悟で行ったほうが良いかもしれません(講義内容が理解できなくても、英会話力は身につくと思うので参加する価値は十分にあると思います)。

次に、私がタイでした経験のうち、印象的だったものをいくつか紹介しようと思います。忘れもしない、1番印象的だったのはタイ式マッサージです。私はタイに行く前からずっと、本場でタイ式マッサージを受けてみたい、TAさんをお願いして連れて行ってもらいました。しかし足のみのコースなのに顔まで施術され、カモ本当に強すぎてあざもできてしまうほどでした。その上マッサージ師さんはタイ語以外理解できない方で、英語で痛いことを伝えようとしても伝わらなかつたことが結構辛かったです。他には、現地のショッピングモールやスーパーマーケット、市場などでの買い物個人的に印象に残っています。見たことのない物ばかり売ってあるのももちろん、爬虫類専門のペットショップや、卸売り用にありえないくらい大量のフルーツが売ってあったりと、とてもわくわくしました。ナイトマーケットでは、洋服や小物を買う際にTAさんが交渉して値下げしてもらえたりなど、タイならではの文化も体験できました。

私はこのプログラムを知ったとき、あまり内容を見ずに、ただ1週間の留学というだけで申し込んだのですが、思っていた以上に沢山の経験ができて本当に行って良かったです。

理学 GCP KAPI コース参加の様子

